

## 2020 年度

**佐藤 諄之介:** 初期研修開始直後の4月にローテーションし最初は少々不安でした。しかし自分の小さな疑問にもしっかり回答をいただき、なおかつ指導医の方のフィードバックも丁寧で、不安なく大変充実した研修となりました。また、肺血栓塞栓症、心筋梗塞、大動脈解離、弁膜症、不整脈などの医学部で学ぶ有名疾患に、救急の場から病棟に及ぶ様々な環境で担当させていただいて、大変貴重な経験ができたと思います。

**芦田 美緒:** 循環器内科研修の2ヶ月は、循環器疾患の初期対応や病棟管理・外来管理について勉強させて頂きました。特に急性冠症候群をはじめとする緊急疾患は、救急外来に搬送されてから緊急カテーテル検査・その後の入院管理を一連の流れで診させて頂けるため、患者さんの状態を把握しやすくとても勉強になりました。また指導医の先生の指導の下、心エコー検査やカテーテル検査に参加できるため、手技の面でも成長できる2ヶ月でした。先生方は教育熱心なため、研修期間で循環器疾患だけでなく初期臨床研修で学ぶべきことをたくさん学べ、大変充実した研修を行うことができました。

**佐々木 裕弥:** 当院の循環器科の研修は他の診療科よりも期間が長く設けられており、2か月間回ることができるというのが特色です。循環器疾患は将来どの診療科に進んだとしても診る必要があるかと思えますし、その多くは緊急性の判断と専門病院への的確な紹介が要求されるものだと考えております。2か月の期間でさまざまな循環器疾患の症例に触れることができ、先生方にもしっかりとフォローして頂け将来必要とされる力を養成することができました。

**上園 深希:** 循環器内科の初期研修では、急性心筋梗塞や心タンポナーデ、大動脈解離など循環器内科ならではの疾患について深く学ぶことができ、大変勉強になりました。また、1人の指導医の先生につくため、心エコーなどもしっかりと指導してもらうことができ、体液量の評価なども自分で行うことができるようになりました。様々な手技(Aラインなど)も実際にさせていただき、2か月間という短い期間ではありましたが、知識、手技ともに成長できたと思います。

**芝元 心一:** 循環器内科の初期研修では循環器疾患の初診外来や救急外来から病棟管理に至るまで様々な業務にあたります。私はどの科をローテートする際も「将来どの科に進んだとしても必要になる知識や手技を習得する」を目標に研修を行なっています。特に循環器内科では利尿薬やカテコラミンの使い方、心臓エコー、穿刺手技等将来必要になるであろう項目が非常に多く、実りある研修を行うことができました。内科医を目指す中で大きく成長した2ヶ月間でした。

**辻井 敦子:** 循環器内科の2か月の研修では救急対応、病棟管理、循環器当直など多くの経験をさせて頂きました。心エコーなど手技の指導を丁寧にさせていただいただけではなく、「なぜその治療を選択するのか」や「心エコー検査など各種検査の結果をどのように解釈するのか」などについて病態生理を踏まえながら丁寧に指導していただき、一つ一つの症例をじっくり考えながら治療を進めていくことができ大変勉強になりました。多忙ながらも非常に充実した2か月の研修を受けさせて頂きました。

**平田 祐太郎:** 当院の循環器内科研修は2か月間であり、循環器緊急疾患の初期対応から一般外来の対応まで幅広い臨床的経験を積むことができました。同時に手技の面でも心エコー検査や心臓カテーテル検査などを多く経験することができました。経験できる症例も不整脈や心不全、急性冠症候群、大動脈解離など多岐にわたりその病棟管理など日々成長を実感できる研修期間だったと思います。